

## 慢性咳嗽を呈した気管支内異物の1例

井形 文保<sup>1)</sup> 池田 貴登<sup>2)</sup> 中尾 明<sup>1)</sup>  
白石 素公<sup>1)</sup> 内野 順治<sup>1)</sup> 石井 寛<sup>1)</sup>  
藤田 昌樹<sup>1)</sup> 渡辺憲太郎<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 福岡大学病院呼吸器内科

<sup>2)</sup> 福岡大学病院卒後臨床研修センター

要旨：症例は60歳，男性．半年間持続する咳嗽を主訴に近医を受診し漢方薬と抗菌薬を処方されたが改善しないため，当科に紹介となった．呼吸困難の自覚はなかったが胸部聴診で喘鳴を聴取した．胸部単純写真で右肺門付近にX線不透過性の結節を認め，呼吸機能検査は不可逆性の閉塞性換気障害を呈していた．胸部CTでは中間気管支幹下部に金属と思われる異物を認めた．異物は菌冠であり，気管支粘膜の浮腫と肉芽形成のため難渋したものの軟性気管支鏡下に除去し，その後喘鳴は消失して呼吸機能検査所見の改善がみられた．

キーワード：気管支内異物，菌冠，呼吸機能検査，軟性気管支鏡